



みんなで作る わたしが創る まちのにぎわい

もりやまふるさと劇団

5月の本番に向けて招集 新作発表即稽古始まる

4月6日、5歳から45歳まで約15人が市立図書館の活動室に集まりました。守山ほたるパーク&ウォークの公演に向けた、役者・スタッフの初顔合わせです。

JC舞台をきっかけに結成 市イベントなどで公演

もりやまふるさと劇団は守山青年会議所(JC)の創立45周年を記念して平成27年に初舞台を踏み出しました。その時は記念事業として一回きりの公演でした。

今回取材した「もりやまふるさと劇団」は、守山ほたるパーク&ウォークなど市のイベントなどで公演し、まちのにぎわいを盛り上げています。
 ~次の日程で公演します~
 公演日：5月26日(日)
 時間：①午後2時
 ②午後6時
 会場：市立図書館 多目的室
 演目：リバーサイドホテル
 ※有料(未就学児は無料)。
 詳しくは5月15日号に掲載します。



5歳~45歳まで、5月公演のために集まったメンバー



ゲーム感覚で喜怒哀楽を演じる練習

劇団代表の清原大晶さんの挨拶で幕を開け、演出の小笠原大輔さんから脚本が配られました。それぞれ役が決まら、早速、脚本の読み合わせ。声色や口調でそれぞれの役を演じていました。

出演したメンバーの中から「楽しかったね」「もつとやりたね」という声が上がります。観客アンケートで寄せられた「もう一度観たい」などの回答に後押しされ、有志によってアマチュア劇団「もりやまふるさと劇団」として平成29年に立ち上がりました。JC45周年記念公演の出演者やスタッフ、広く市民にも呼び掛けて劇団員のオーディションをしました。

休憩を挟んで、脚本とは関係なしの演劇の稽古が始まりました。「喜怒哀楽十驚」をテーマに指定された感情を演じ、次の人のテーマを指定するゲーム感覚の稽古に、ペアを組んで指定されたテーマの場面を相談なしに設定して喧嘩をしたり笑い合ったりアドリブの応酬。子ども、大人、スタッフも関係なく、全

な役や隠れた努力をしながら「一つの舞台をつくりあげてゆく」「観客を楽しませる」「守山の歴史や魅力を伝えてゆく」という大きな目的は同じだからかもしれません。



脚本の読み合わせ



舞台では年齢に関係なく同じ役者



仲間の前でシーンを設定して演じる練習

けられて、集まるメンバーも定着してきました。守山ほたるパーク&ウォーク、守山夏まつり、交通安全啓発寸劇など、市や団体が主催するイベントなどの一端を担って、これまで7回の公演を行ってきました。第8回目の公演となる今回も、前公演で舞台に立った子どもたちが呼び掛けに応じました。子どもは女子が多く、大人は男性が多い...という劇団員の構成になりました。

5月の本番までに劇団員は約10回の練習日を設けて猛稽古をします。脚本を覚えたり役作りをしたりは劇団員がそれぞれに行います。小道具も持ち寄ったり保護者が作ったり仲間同士で汗を流します。

集まれば稽古も遊びも真剣 まちの魅力伝える目的は同じ

劇団の立ち上がりから参加している中学生の女の子に将来は俳優を目指しているのか聞いてみると、「興味はあるけれど、やりたい事はたくさんあるので分かりません」と答えてくれました。家庭の事情で休団している子どもが練習場を訪ねて来ると、嬉しそうに迎えて一緒にしゃべりをしていました。

これまで大きな公演では吉本興業に所属するプロの脚本家に協力してもらってききましたが、今回は初めてメンバーが脚本を書き上げました。役者の子どもたちは「いつもは新喜劇っぽかったけれど、今回は守山らしいオリジナルなので面白そう。楽しみです」と話していました。



舞台を下りても楽しい仲間(市立図書館前)



昨年の公演(火まつり交流館)

配役は気になるかもしれないし、仲間はライバルでもありません。本の読み合わせや稽古の時は真剣に演技をしますが、一方で誰かが失敗しても笑い飛ばし、助け合い補い合う仲間の絆はとても強いとの事です。いろいろ

今年度の大きな公演では吉本興業に所属するプロの脚本家に協力してもらってききましたが、今回は初めてメンバーが脚本を書き上げました。役者の子どもたちは「いつもは新喜劇っぽかったけれど、今回は守山らしいオリジナルなので面白そう。楽しみです」と話していました。